

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第4回 教育・文化部会	
日時	平成22年11月24日（水）午前9時30分から午前11時30分	
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室19	
出席者	作業部会員 （敬称略）	石塚弘登、藤沢謙一郎、山岸恵子、毛涯 伸、轟 繁満、宮澤俊弘、宮澤 博
	関係課員	庶務課、秘書課、障害福祉課、保育家庭支援課、観光課、教育委員会事務局総務課、学校教育課、保健給食課長、生涯学習課、文化財課 企画課（事務局）

I 会議次第

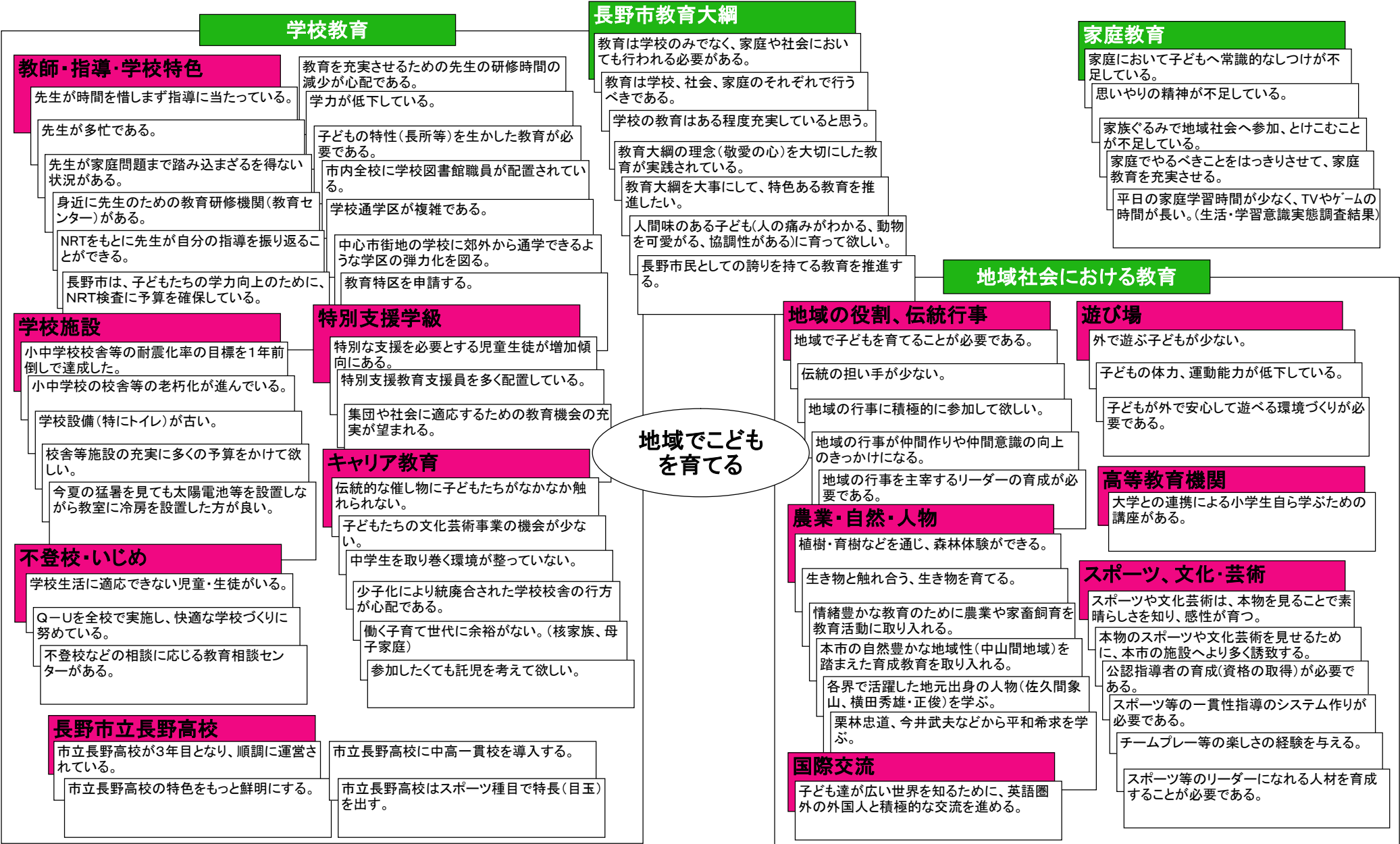
- 1 開 会
- 2 市民フォーラム21 第3回 教育・文化部会 会議概要について
- 3 ワークショップのまとめについて
- 4 本日の日程等について
- 5 ワークショップ
テーマ1：政策4-1 次世代を担う人材の育成と環境の整備
テーマ2：政策4-2 豊かに学びあう社会の形成
- 6 その他
(1) 今後の予定について
- 7 閉 会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 ワークショップのまとめについて
「政策4-3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承」及び「政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上」をテーマにワークショップで検討した意見を資料1及び2のとおりまとめることで確認した。（第3回 教育・文化部会 11月10日開催）
- 5 ワークショップ
テーマ1：政策4-1 次世代を担う人材の育成と環境の整備
テーマ2：政策4-2 豊かに学びあう社会の形成
2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

政策4-1 次世代を担う人材の育成と環境の整備

別紙



政策4-2 豊かに学びあう社会の形成

別紙

生涯学習センター

生涯学習センターは生涯学習の拠点である。

公民館、図書館、博物館、美術館とは館ではなく、サービスのことである。

生涯学習センターの利用が伸びている。

生涯学習センターや公民館は多くの市民にご利用いただいている。

生涯学習センターのトイレが充実している。

トイゴの活用にアイデアを出したほうが良い。

人づくり

新しい講座を考えても講師が見つからない。

リーダーバンクを整備し、活用する。

“ようこそ先輩”の人材バンクを創設し、世代間交流を図る。

公民館活動レベルの講師の人材バンクを創設する。

老人ホーム、介護施設等へ派遣できる絵画コーチを登録する。

若手芸術家(長野市出身)のリストを作成する。

公民館の講師を育成する。

アマチュアを引っ張っていく文化リーダー(地元若手40代)の育成が必要である。

各地区に生涯学習活動の応援団を結成する。

地元にいる若い人のファッション(おしゃれ)文化等々にアドバイスしてもらう。

若者文化を生かす人を育てる。

地域公民館の活動を行う若い世代の人材が少ない。(関心が薄い)

公民館の管理を一元化し、ソフト面(学習)の人づくり、まちづくりに力を入れる。

ボランティアの意志を持っている人を活動に結びつける必要がある。

地縁、志縁を復活する。(活動支援)

価値観の多様化からコミュニティ意識が希薄である。

公民館(ソフト事業)

生涯学習の中で公民館活動が活発である。

各地区とも公民館活動が活発に行われている。

カルチャースクールが盛況である。

講座受講料は高いが、魅力的リーダーが講師を務め、方向性もしっかりしている。

成人学校が充実している。

成人学校受講者が減ってきている。

毎年同じような講座が開催され、マンネリ化している。

将来を担う若者の利用が少ない。

老人大学(シニアライフアカデミー)で学習する年齢層は、高齢者が多い。

絵画や書(制作・創作)などの講座を発表(展示)しているのかわからない。

絵画や書などの発表回数が少ない。

生涯学習の発表の場を確保する必要がある。

専門性の高い学習内容(プログラム)を整備する。

中高年の方への講座を充実する。(中高年はパワーがある。)

生涯学習情報について相談窓口が定まっていない。

各種学習講座の総合窓口の開設(テーマ別、開催日別)が必要である。

生涯学習講座を知らない人への情報提供が必要である。

市内各所で開催されている講座等の情報が一元化されていない。

図書館

市域が拡大しても、各地域に図書館があるわけではない。

図書館サービスが平等な地域サービスになっていない。

図書館本館・分館の新設を含み、図書館の充実が必要である。

圖書の貸出数が増加している。

図書館の貸出冊数が増加している。

ブックスタート事業が始まってよかった。

図書館の絵本読み聞かせや人形劇の実演をPRする。

図書館司書の増員が必要である。

図書館経費(予算)が減少傾向にある。

図書購入費が年々減少している。

図書館の分館設置が進んでいない。

図書館の位置(場所)が良くない。

図書館本館及び分館の利用圏内にある分室の役割を見直す必要がある。

広い駐車場が確保できる場所に図書館(市立、南部とも)を移転、改築する。

図書館をガラス張りの施設にする。

子どもたちの本に接する機会が減少しており、図書館を多目的施設とする。

移動図書館は、本館、分館及び分室の利用が困難な地域のみとする。

移動図書館は、滞在時間を延長し、読み聞かせなどを行う。

公民館(ハード面・体制)

公民館レベルで「教える⇔学ぶ」学びあう、教えてもらう体制作りが必要である。

29の市立公民館ごとに設置されている公民館運営審議会は廃止する。

公民館運営審議会委員を社会教育委員が兼ねる。

市立公民館が独立並列方式で、あり方を議論する場がない。

市立公民館に統一的な考え方がない。

公民館に指定管理者制度を導入するのは難しいのではないかと。

公民館が老朽化しており、施設整備が必要である。

新市部では支所と公民館が別建物で、総合市民センター化していない。

支所と公民館が別設置されている。(縦割り行政が克服できていない。)

支所と公民館は一つの建物で、コミュニティセンターとする。

公民館をコミュニティセンター化することで地区の拠点とすることができる。

地域公民館の建設補助がある。

民間カルチャースクール

民間カルチャースクールとのすみわけが必要である。

公民館成人学校の講座受講料が民間カルチャースクールと変わらない。

創造館

創造館(市民アトリエ)を建設する。

市民アトリエ(公開アトリエ)、RH室(市民会館)を作る。